

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1270800970		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら市川妙典(2F)		
所在地	千葉県市川市塩焼4-14-22		
自己評価作成日	令和5年8月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube
訪問調査日	令和5年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意思を大切に、無理の無い時間を過ごす頂く為に私達職員は業務を行う時間設定をなくす取り組みを心掛けています。また、健康の維持を図る為に週3回の集団体操、週1回の移動販売に歩いて行くなど取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「太陽の様に温かく、空の様に広い心で笑い声の絶えないその人らしく一人一人が主人公になれるサービス提供を目指します」をホームのスローガンに掲げています。このスローガンには全職員の意見のほか、利用者からの意見も反映させています。日ごろから利用者の声を大切にして、業務ではなく、利用者を優先にしたケアの実践を大切にしています。楽しみの幅を広げるために利用者の力を結集して壁画づくりに取り組んだり、季節行事の充実化などを通して生活の活性化を図っています。地域とも引き続き良好な関係を築き、地域に根付いた運営を図り、今年秋には開設20年を迎え記念行事を予定しています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染防止の為、現在は唱和を控えているが、実践できるように努力している。	「太陽の様に温かく、空の様に広い心で笑い声の絶えないその人らしく一人一人が主人公になれるサービス提供を目指します」をホームのスローガンに掲げ、業務中心ではなく、利用者中心であることを全体で共有して支援を進めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回の近隣公園にて移動販売を利用し地域の方々との交流、自治会行事への参加をしている。	地域とは良好な関係を継続しており、毎週近隣に訪れる移動販売を利用者と一緒に活用しています。地域の役員から定期的に地域の情報を収集したり、近隣に新しくできた公園の活用など、地域資源を積極的に活用して利用者の生活の幅を広げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修を職員が受け、地域に理解を得るための努力をしている。今後はご家族への受講も計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期より対面での運営推進会議の開催を4年ぶりに行っている。新しく入居されたご利用者様の家族も参加していただけるよう呼びかけをし、まずはご家族同士のコミュニケーションを図り意見を出しやすい環境作りをしている。	運営推進会議は今年度6月から対面式での開催として、利用者家族、地域包括支援センター、民生委員の方の参加を受けてホームの運営状況や活動報告を中心に行っています。参加者からも意見や要望を確認して運営に生かせるように努めています。	運営推進会議のレジュメについては作成していますが、今後は話し合われた内容については議事録としてまとめ、職員や家族と共有できるとよいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連携と、自治会との交流を行いながら事業所として取り組み内容を発信している。	運営上相談が必要な際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰いでいます。また地域包括支援センターとも運営推進会議に参加頂いた際に、情報提供を受けるなど関係機関とも協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修やユニット会議でも話し合い一日の流れを見ながら穏やかに過ごせるよう心掛けています。また、施設内勉強会にてケアの理解を深めている。	身体拘束をしないケアの実践に向けては、ホーム長、ユニットリーダーを中心に2ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を開き不適切ケア、センサーの使用状況、身体拘束の有無等について確認しています。さらにホーム内において身体拘束及び虐待防止研修も実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月リーダー、ホーム長会議にて虐待についての話し合いを行い、グレーゾーンの内容など早目の防止と対策を行っている。話し合いの内容はフロアミーティングで他の職員と共有しご利用者様が安心した生活を過ごせるよう努めている。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が外部研修などを積極的に受講し、その知識を施設内研修などで共有し、各職員が理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が行い十分な理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、来訪時、電話等で得た要望・希望は直ぐに反映出来る様に全体会議等で話し合い実行に繋げている。	家族からの意見や要望については面会に訪れた際やケアプラン更新時、運営推進会議等を通して確認しています。意見や要望等には迅速に対応し運営に活かしています。利用者からの意見や要望は日常会話から収集し日々の支援に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・ホーム長会議にて職員の状況の把握や問題点をあげ面談が必要な内容、全体で話し合うべき内容化を判断し対応している。管理者として職員の意見は1つも落とさず実行させたい。ダメであれば元の戻すとの考えがある。	職員からの意見や要望については、定期の面談以外にも日常的にホーム長やリーダーが中心となり確認しています。職員も直接ホーム長に相談するケースも多く、気兼ねなく意見が言える環境が築けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や目標シートについて話す機会を持ち意見の言える職場環境を心掛けている。また、スタッフにはメンタルケアが出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で知り得たことは共有し新しいことを取り入れるように努めている。また今期より外部研修の参加が出来るようにもなりましたので、研修参加への発信と促しをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部の職員は社外の交流はほとんどないが、一部の職員は研修への参加により交流を持てるようになった。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの機会を多く作り、ご本人が困っていることなどを、遠慮なく話せるような関係づくりを行っている。また、介護記録の記入強化を図り、統一したケアの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を電話連絡や来設時に十分に伺い、ここでの生活を伝えたりと、こまめに行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握しこれまでの生活を大切にしたい対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や料理を作ったり居室やリビングを皆で掃除したりと、職員は意図的にきっかけを作り、意欲的に活動に参加して頂けるように関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会への機会を増やし、ご本人とご家族との関係性を深められるように電話やお手紙にて来訪して頂けるように話をしている。また、面会等来られた際には必ず管理者、リーダーがお話しさせて頂き状況報告をし、ご家族様との会話を持つ時間の確保をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの面会に関してはご家族の了承の下友人関係の継続を行っている。また馴染みの場所などはご本人の状態に合わせ職員やご家族と一緒に出席したりする時間を設けている。	馴染みの人や場所との関係の継続に向けた支援では、家族の方の許可を得たうえで友人の面会を受け入れたり、利用者の誕生日に個別外食で馴染みのお店に出かけるなど、ホーム入居後も馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで歌や体操・家事活動を行い居室にいる利用者にも声掛けし、毎日昼食後には利用者様全員集め手足を動かし、下肢筋力低下防止を含め、利用者様同士の繋がりを意識した支援に心掛けている。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談などの対応、事業所として出来るフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の度合いによっては、ご本人が自分の意向を訴えられない方が多いので、日々の生活の中での本人の様子を注意深く観察し、本人の意向をくみ取るよう努めている。	アセスメントで抽出した課題を踏まえて担当者会議を開催し、職員や家族、主治医等の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成し利用者本人及び家族の同意を受領しています。毎月モニタリングを行い、目標の達成度合いを確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴をご家族様にお聞きし馴染みのある環境に近づくさま努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必ずユニットミーティングで一人一人の認知機能、ADL等の変化に焦点をあて、共有する機会を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングで、モニタリング実施。スタッフ個々からの情報を収集し、共有・意見交換をし現状に合った介護計画を作成している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員からの意見のほか、利用者本人や家族、主治医の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認しています。	ケアプランに掲げている短期、長期の目標期間については、介護保険被保険者証の認定の有効期間に合わせて、設定できるとよいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在ケアカルテへの入力となっている一覧表を使い入力漏れがないようにしている。また細かい詳細に関しては業務日誌に書き職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下・認知症の進行状態によって変化する生活リズムを朝礼・介護日誌・担当者会議で発信し共有。検討を常に図っている。		

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報をとり、個人に合った資源の活用をしている。自治会行事や他階の行事にも積極的に参加し、楽しむことができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を受けながら体調の変化に医師から指示をもらい安定した生活が営める努力をしている。	提携先の医院とは定期的な往診を通しての連携のほか、必要に応じて職員向けに研修を実施するなど往診以外にも連携を図ることができています。看護師も提携先医院から週に一度来訪され利用者の健康状態を確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理連携記録を通し体調変化・体調不良時には細かく記入し週1回の訪問看護に報告を落としている。医師、訪問看護師、職員からの情報を共有し速やかに受診が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の情報交換を行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設研修・外部研修などに積極的に参加。施設では勉強会を開き初期対応の訓練に努めている。	重度化や終末期に向けた方針については利用契約時に各指針に基づいて説明を行い同意を受領しています。終末期を迎えた際には、主治医から直接、今後の支援方針を家族の方に伝えて頂いています。家族とも方針を共有して終末期の支援に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設研修・外部研修などに積極的に参加。施設では勉強会を開き初期対応の訓練に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練のほか夜間を想定した訓練も行い対応出来るよう努めている。	令和5年3月に夜間の火災を想定した訓練、5月に水害を想定した訓練を実施しています。ホーム内に掲示しているスローガンには災害時の避難先も明示しており、常時確認できる状態にしています。事業継続計画(BCP)については本部が中心となり作成を進めています。	

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー研修などで、スピーチロックなどの知識と理解を職員と共有し、日々、自尊心に配慮した声掛けを心掛けている。	「接遇・マナー」をテーマにした施設内研修や日々の朝礼や毎月の全体及びユニット会議を通して利用者の意思の尊重について繰り返し伝え全体の共通理解を深めています。また、職員の基準ではなく、利用者の意向を常に第一にしていこうなど、繰り返し確認しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を第1に考え自己決定が出来る環境作りと声掛け大切にに対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その暮らし方を継続出来るような生活を、支援するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は服を一緒に選ぶなどし、季節に合った服を着て頂くように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日・敬老会・クリスマス・お正月などの特別な日には季節が感じられるようなメニューも取り入れつつ、お好みの物を提供できるように工夫をする様に努めている。	月10日は自炊の日として、利用者からのリクエストも確認して食事メニューを決め、可能な場合は利用者にも関わって頂き食事の準備や後片付けを進めています。食の楽しみに向けては誕生日のリクエストメニューや個別外食、行事を通しての食事レクにおいて食の楽しみにつなげています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と連携を取りつつ、その人に合った食事、水分の提供している。又、毎日ヤクルト提供など便秘対策にも努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けも含む、介助が必要な方は、日々職員が口腔ケアの大切さ意識しながら行っている。自立では困難な方が多い為、毎食後毎食後声掛け・誘導は徹底して行っている。			

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムをつかみ、適宜声かけ促しをしながら、出来るだけトイレにて排尿・排便出来るように努めている。おむつの方も失禁による不快感が続かないよう、リズムに合わせて、適宜交換するように努めている。	利用者一人ひとりの排泄状況についてはタブレット上に入力され、タブレット端末を通じてデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄は利用者の状態を考慮したうえで、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携を入れながら、週3回の集団体操、日々の散歩を入れ、毎日便秘だけではなく免疫向上の為にヨーグルトの摂取など取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後共に休息の時間、レクリエーションや散歩はその時の状態に合わせて参加。昼食後は軽く体操をしリフレッシュして安眠になるような支援をしている。	利用者の体調やペースなども考慮して週2～3回入浴できるように支援しています。入浴拒否者に対しては声のかけ方を工夫して、無理強いのないように努め、利用者のペースで安全に気持ち良く入浴して頂けるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後共に休息の時間、レクリエーションや散歩はその時の状態に合わせて参加。昼食後は軽く体操をしリフレッシュして安眠になるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬情報を常に最新のファイルステーションで確認出来るようにしている。薬の交換・追加があった時はユニット日誌で説明し共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の職歴・一人一人の得手不得手に合わせ日課や生活に活かしている。また、様々な楽しみごとの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも5類になった事で、ご家族の協力にて定期的な外出が出来ているご利用者様と出来ないご利用者様がいますが、出来ないご利用者様に対しては、職員と一緒に外出をし始めました。また近隣に公園が出来ましたので、散歩のコースとして出かけています。	感染症対策を取りながら、地域の移動販売車が訪れる場所へ買い物に出かけたり、夏場においては夕方の涼しい時間帯にホーム周辺の散歩にお連れしています。また今後はホーム近隣にできた公園で戸外活動の予定も立て、戸外活動の幅を広げていくことにしています。	

グループホームきららし市川妙典(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回の移動販売を利用して、好きな物をご本人に選んで頂き、職員の見守りの中ご自分で支払いをして頂くなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいが困難な場合は代筆をするなどして支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分はけがのない様配慮を行い穏やかに過ごせるよう努めている。又、花や飾りで季節を感じられるように工夫している。	リビングにはソファを設置してくつろぐことができる空間も整えています。窓からの日差しによりリビングは明るく、室温も適度な温度で保っています。季節に合わせて作品を作りリビングの壁面に掲示し季節感を感じられるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、その時の気持ちや状態にも配慮し、日を浴びたりTVを見たりする場所の提供を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時に説明を行い、できるだけ慣れ親しんだ家具や寝具を持って来ていただき、落ち着いて過ごせる環境作りになる様に居室担当を設け、入居者と一緒に環境整備に努めている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的の実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者同士の関係を把握し、その時の気持ちや状態にも配慮		